

(令和7年2月15日)

下市田区「地元町議と区民の懇談会」事前質問への回答

Q1) 高森町議会は今後7月に任期満了となり改選を迎えます。来年1月には町長選も予定されています。そこで、少し早いですが、おうかがいします。

①4年間の任期を振り返って、どのようなことを感じていますか。

②現在の町政について、どのように評価しますか。また今後の町政について、どのようなことが必要だとお考えですか。

北沢幸保議員

①◆町の計画や町長の公約や地元の要請にも無かったサッカー場が出来たことの経緯に怒りを感じると共に、今後の町の財政に影響が出ることを懸念しています。

◆場外舟券売場に対して地元と議会は反対したのに、町長は反対の意思表示をしていません。町民や議会の意思決定を尊重しない姿勢に疑念を抱きます。

◆八日市場線への要対策土の持ち込みに対して、地権者から反対されて断念しましたが、他の町内工事への持ち込みは断念していません。環境や町民の健康を守るより、JRの立場を主張しています。町長が環境保全条例を守らないことは絶対に許せません。

②◆信州たかもり温泉をリニューアルするか廃止するか等の判断が求められています。町長は、3月議会の令和6年度一般会計補正予算に実施設計費と令和7年度の工事費を盛り込もうとしています。改修工事費は15億円かかると説明しました。国への補助金の申請は2月4日に行っていて、国の採否は3月下旬から4月になるようです。しかし町民には改修の基本設計案は示されましたが、最終的な基本設計や事業を担保する町の財政状況の見通しなど判断する情報については全く不十分です。必要な情報を要求して、町民に知らせて、改修の有無等は町民の意向で判断すべきです。その為には、議会に対してリニューアル関連予算の議決を保留させ、町民が考える時間を確保するしかありません。

◆地域交流センターの実施設計が令和7年度予算案に盛り込まれるようです。基本設計案に対する町民の意見募集は12月20日に締め切られましたが、町民に対して、最終的な基本設計の説明会は行われていません。また、建物の解体や建設にいくらかかるのかも示されていません。このような状況では実施設計の予算を議会で審議することは不可能です。

たかもり温泉も地域交流センターも、町民に十分な情報が伝わっていないのに、

3月議会に関連予算を計上することはあまりにも拙速です。まちづくり基本条例や議会基本条例が「絵にかいた餅」にならないように手立てを尽くすべきです。

三浦喜久夫議員

①前期・後期ともに委員長としての役を全うすることに努めてきました。議会の中では議会基本条例が昨年9月に制定され、議会運営や方針、基本的なルールが明文化されました。議会や議員の活動の指針を町民の皆様とともに共有していきたいと思っています。

②少子高齢化、人口減少がますます深刻化する中、子育てや人材育成などに力を入れています。環境面では、ゼロカーボンに向けて取り組んでいることは、この町が住みやすいといえる一面と思います。シニア時代に向け、農商工や観光など町の産業にもう少し力を入れる必要があると感じています。

小川修議員

①議員の仕事は思っていたよりすべきことも多く、またデジタル化への対応も不慣れなため、苦慮しておりましたが、なんとか克服しました。2050年のゼロカーボンに向け一段と活用が必要視されております。習得していくことが多いと感じております。

②議員になってすぐコロナとロシアのウクライナ侵攻による物価高騰。行政の対応は、皆さんの生活不安に対し、生活応援券の配布など対策が行われていると思っています。

小沢恵子議員

①1年目から「議会だより編集特別委員会」に在籍しています。3年目から委員長になったことをきっかけに、伝える責務と真摯に向き合い、討論や質疑をはじめとする「議会の見える化」と、より「わかりやすい」、より「読みやすい」編集を心がけ、1月に行われた長野県「議会広報クリニック」では、161号について講師から概ね良い評価をいただくことができました。これも、編集に当たりご協力をいただいている皆さんと、読んでくださっている皆さんのおかげです。心より感謝申し上げます。

また、現在発行中の162号では、創刊以来初めての「議会だより読者アンケート」を行っています。多くの皆さまから回答を寄せていただき、今後の参考にさせていただきたいと思います。ぜひ、ご協力のほど よろしく願いいたします。

②「第7次 町づくりプラン」に基づいた政策として認識しています。人口減少

に関する課題は多岐にわたりますが、あったかてらす、ほたるパーク、MIZBEステーション等々が、関係人口・交流人口の創出につながり経済効果が期待されます。

「地域に根差した人材育成」などを含め、若い世代にとって「住み続けたい町」という意識に繋がっていくことを期待しています。

Q 2) 自治会未加入の問題について毎回のように取り上げていますが、今回は次の2点に絞っておうかがいます。

①消火栓や防犯灯の維持管理、交通安全施設の設置要望、地区計画による生活環境の改善など、自治会が担っている仕事によって地域住民全体が恩恵を受けているわけですが、自治会加入者だけが負担を背負うのは不公平です。負担を公平にするために、どのような方策が考えられますか。

②自治会加入率が50%を切ると、もう自治会がその地区を代表する正当性がなくなると思います。そうなった場合、町として地域住民の合意を担保するために地域協議会のような制度を導入することも考えられますが、どのように考えますか。

北沢幸保議員

①自治会は、任意的自治組織であり、加入を強制することはできません。自治会の脱会問題に対して大変ご苦労されていることに敬意を表します。

町での取り組みとしては、転入受付の時に自治会への加入をしっかりと訴えること。また、ホームページでも加入を呼びかけるなどに力を入れる必要があると思います。

ご指摘の3事業等は全町民が安全安心に暮らすために欠かせない施設です。加入者と未加入者の負担の不公平を解消するには、町は町民益にならない事業を行わず、生活に密着したこのような事業に予算を割くべきです。

②現在、区は地域課題への対応のみならず、加入率の低下や役員の成り手不足、区長の負担など、様々な課題が発生している事と思います。こうした課題に対して区・地域協議会・行政で負担を分かち合うことで、区のスリム化に繋がることができると説明されています。活動にかかる費用は町から補助されます（条例ができれば）。地域協議会の標準的な活動は「地域づくりミーティングの開催」「地域ビジョンの作成」「地域づくり事業の実施」の3つが挙げられています。

詳しくは行政書士などの専門家を招いて講演会等を開催し、区民で勉強していくといいのではないのでしょうか。

三浦喜久夫議員

①加入者だけ負担を背負うのは不公平。負担を公平にする方策、金銭的なことといえば、ここに住む以上、平等に区費を納めることは当然だと思います。自治会脱会者には入会金などを返金する代わりに先10年とか20年分の区費や自治会費を前納してもらっては。年配の方は憂慮します。できる人で助け合う共助の気持ちで運営するしかないと感じています。

②正当性の面ではわからないが、地域協議会となると区や自治会の持つ財産をどうするか。すべてなくせばいいのかもしれないが、受け継がれてきた歴史や文化をどう守るか、財産をどう処分するか。課題は多いと思います。

地域協議会制度の導入は区民の皆さんがその方向がいいとなれば導入の検討も必要だと思います。ただ下市田だけ導入できるのか、他地区とはどうなのか、これからの世代はどう考えるか、時間をかけ話し合うことが必要だと思います。

小川修議員

①私も自治会の一員として、不公平さは感じています。未加入の方には何らかの形で負担をお願いする方法を、皆さんと共に考えていく必要に迫られている気がしています。

②未加入世帯はいつの時代から増えだしたのでしょうか？ それは何が原因で増えだしたのでしょうか？ そのあたりを解明しないと解決には至らないような気がしております。自治組織がまだしっかり機能している今、考えていく必要があると思います。

小沢恵子議員

①区費の未入金は重要な課題だと思います。住人のニーズの変化に応じた自治会運営や、振込の方法などを含め、新たな仕組みが必要だと感じています。

②選択肢の一つとして「地域協議会」もあると思います。

Q3) 下市田区は全体的に転入者が多く世帯数が増えています、6区（出砂原）だけは例外で、転入者が少ない中で高齢化が進行して自治組織の運営も困難を増し、いよいよ来年度から常会を大幅に再編成するとともに、自治会役員も減らすことになっています。出砂原地区についておうかがいします。

①下市田区の中で出砂原だけこのような状況になっているのは、なぜだと思いますか。何か打開策がないのでしょうか。

②竜神大橋が開通すると明神橋西ラウンドアバウトの混雑は緩和される見込みですが、同時に観光客の車の通過も減少します。出砂原に個性的で魅力的な店や見所がいくつかあれば、観光客が豊丘の「道の駅」で買い物するついでに立ち寄ると思いますが、そういう店や見所を増やす方策はないでしょうか。

北沢幸保議員

①市田駅が出来てから出砂原の集落が形成され、商業の中心地として発展してきました。その後、車社会となり、国道沿線に大型商業施設が進出して、出砂原の商店のお客は減り、後継者も他の職業に就いて、住宅も仕事に都合の良い場所に移っていく傾向がうかがえます。

打開策は、住んでいる人たちが出砂原の住みやすさ（駅、病院、金融機関、国道、大型店に近いこと等）をアピールしていくこと。空家や空店舗をリノベーションして活用すること。空家に移入者や外国人労働者等を受け入れること。開かれた自治会運営をすることなど考えてみました。

②アントレプレナーで起業して成功している飲食店が下市田にあります。昔の考え方ではお客さんが来るとは思えない場所なのに、どうしてかなと思うところです。このような営業方法の発想は大変参考になる事例だと思います。

車社会とSNSの普及を意識して、駐車場を確保して、出砂原に行かなければ「食べられない、買えない、見ることができない」等の店や施設はどうだろうかと思います（例：チョウザメやキャビア料理、市田柿や加工製品、地元の食材や果物にこだわった店、マツザワや旭松等の関連の店など）商工会が音頭を取って起業のための指導援助を行うべきです。

三浦喜久夫議員

①出砂原だけ、なぜなのかはわからないが、町内地区の先進であって、他の自治会も将来同じになるのかもしれないと感じます。2区などとの合併は？ 住宅地として基盤整備を行い、転入者を増やすことは？ 国道・県道の整備は？

②朝霧道路ができたので、市田駅から下市田駅までを中心に、南北に展開していったらどうだったか？ 見所を増やす方策は見当たりません。

小川修議員

①出砂原だけの問題ではなく下市田各区に波及しようとしています。特に後継者が都会へ出て行って故郷へ戻らない例はどこにもあると思いますが、その辺りについてはどうでしょうか？

②竜神大橋は完成してはいませんが、その見通しを立て、町では山吹下河原の開発を進めていると思います。何か新しい案があれば頂いて参考にさせてください。

小沢恵子議員

①人口減少・少子高齢化は出砂原地区だけの課題ではないように感じています。

②令和6年に出砂原地区の方と町が行ったワークショップでは、「道路の拡幅と片側に歩道が欲しい」という要望があったとうかがっています。

Q4) 座光寺から夕映え道路に直結する新しい橋の建設が始まり、近い将来、この橋から国道153号へのアクセスが重要な問題になります。武陵地交差点の改良は現在まったく見通しが立たず、国道4車線化・バイパス化などと併せて考える必要があると思いますが、どのように考えますか。

北沢幸保議員

エスバードと下市田を結ぶ橋ができれば、武陵地交差点の交通量は格段に増えると思います。エスバードは南信州広域連合が関わる施設です。この施設へのアクセスを改良するために橋が架けられます（高森町が要求したものではありません）。しかし、国道へのアクセスも改良しなければ橋を架けた意味がありません。町は南信州広域連合や飯田市に訴えて一緒に武陵地交差点の改良を運動していくべきです。5区や下市田区も粘り強く訴えていく必要があると思います。

4車線化・バイパス化などは、運動する中で見えてくるのではないのでしょうか。

三浦喜久夫議員

地域の人たちの理解が優先。私の考えは、リニア時代に向け国道4車線化は必要。国道をバイパス化したら現国道は生活道路となり活性化はないと思います。

小川修議員

原則としては現道拡幅だと思いますが、結論が出ないようなら他の案があれば参考にさせてください。最近、天竜川を渡る案も浮上しているうわさもあり、まだ先と思わず、皆さんと一緒に知恵を絞らなければならないと思います。

小沢恵子議員

国道4車線化については、まず、国道をどこに通すのか地域の話し合いが必要かと思っています。